

令和元年 12月 27日

## 南の風 2019 ウィンターカップ特集号

南部地区ミニバスケットボール連盟  
会長 藤原 敬一

2019 ウィンターカップテレビ観戦記です。

26日(木)までの結果です。男子はベスト8、女子はベスト4が出そろいました。今日、27日(金)の組み合わせは次の通りです。

男子は、福岡第一(福岡/総体1位) VS 桜ヶ丘(愛知)、東山(京都) VS 報徳学園(兵庫)、福大大濠(福岡) VS 延岡学園(宮崎)、明成(宮城) VS 北陸(福井/総体2位)

女子は、桜花学園(愛知/総体1位) VS 大阪薫英女学院(大阪)、京都精華学園(京都) VS 岐阜女子(岐阜/総体2位)

男女とも、ウィンターカップの上位常連校や強豪校と言われる高校は、留学生の制度を取り入れている学校が多いです。

留学生を取り入れることについての議論はさておき、今年の男子ベスト8、女子ベスト4を見ても、男子は福大大濠と明成を除く6校は留学生がいます。福大大濠と明成は、父母の両方が外国籍かどちらかが外国籍の選手はいます。女子では大阪薫英女学院だけが、日本人だけの構成となっています。

言うまでもなく、留学生や外国籍の選手の身体能力は日本人をはるかに凌駕するものがあります。特にサイズを生かしたりリバウンドプレイでは、しっかりボックスアウトしても上からボールを取られたり、続けて何回もキャッチされたりして如何ともしがたい場面をよく見ます。

自チームに留学生や外国籍の選手がいる場合はマッチアップさせることもできますが、そうでない場合はチーム戦略上大きなハンディキャップになるのは事実です。

今回は特定のゲームではなく、観戦していて気になったことを書きます。

最初にジャンプシュート、3Pシュートについてです。統計によると大会全体の決定率は、アップしているということです。男子は片手で打つ選手が圧倒的に多いのですが、私が観たゲームで気になったのは、ボールミートからキャッチしてムーブ、セットの動作が大きい選手が多いことです。ノーマークのジャンプシュート(ペイント外)や3Pシュートを外す原因の一つがそれです。ボールキャッチからボールセットまでが大きな動作になる(大きく踏み込みゆったりとセットする)と、身体の軸がぶれ余計な力が入りやすくなるのです。またボールを受けた瞬間のポジションの基本はシュートポジションがベストです。ボールキャッチからボールムーブ、セットまでに余分な動作を入れないことが目的です。

女子の場合はペイント外のジャンプシュート、3Pシュートは疑似片手か両手で打つ選手がほとんどですが、男子に比べてボールミートからジャンプストップ、ボールセットが素早い選手が多いのが特徴でした。繰り返しますが、ボールミートからボールセットが素早いと、身体のぶれは少なくリリースが一定になるのです。

次に1on1のオフェンスです。攻めの引き出しは男女ともバリエーションが増えています。ステップ、フェイク、ロールターンなどを駆使してドリブルからシュートに行くシーンがよく見られました。

ただもう少しボールマンディフェンスを左右に動かして、スペースをつくりドリブルで攻めることが必要だと感じました。そのことについては次号にします。年内に書く予定です。